Kyoto University

京都大学散策マップ

本部キャンパス

●時計台

1925（大正14）年竣工。総長室や大ホールが置かれ、大学のシンボル的建物となった。1997年の創立百周年を記念して、2003年12月に「百周年時計台記念館」に改装された。かつて背面にあった法経第一教室は京大で最大の教室で、滝川事件の際の学生大会や、大学紛争時の団交の場としても使われた。なお、正面のクスノキは、1934年の室戸台風で折れた初代の後に植えられた二代目。

●総合博物館

2001（平成13）年にオープンした、日本最大規模の大学博物館。京大が開学以来100年以上にわたって収集してきた貴重な学術標本資料250万点を収蔵・展示。

［休館日］　月・火曜日及び年末年始

［観覧料］　一般400円、大・高校生300円、中・小学生200円（団体割引あり）

●文学部陳列館　（登録有形文化財）

1914（大正３）年竣工。歴史学・考古学・地理学・古美術関係など、文学部の貴重な収集資料を収蔵する建物としてつくられた。出入口のペディメント、上部の楕円形の小窓、棟上の小塔など、キャンパス内でも際だって華麗な建築といえる。

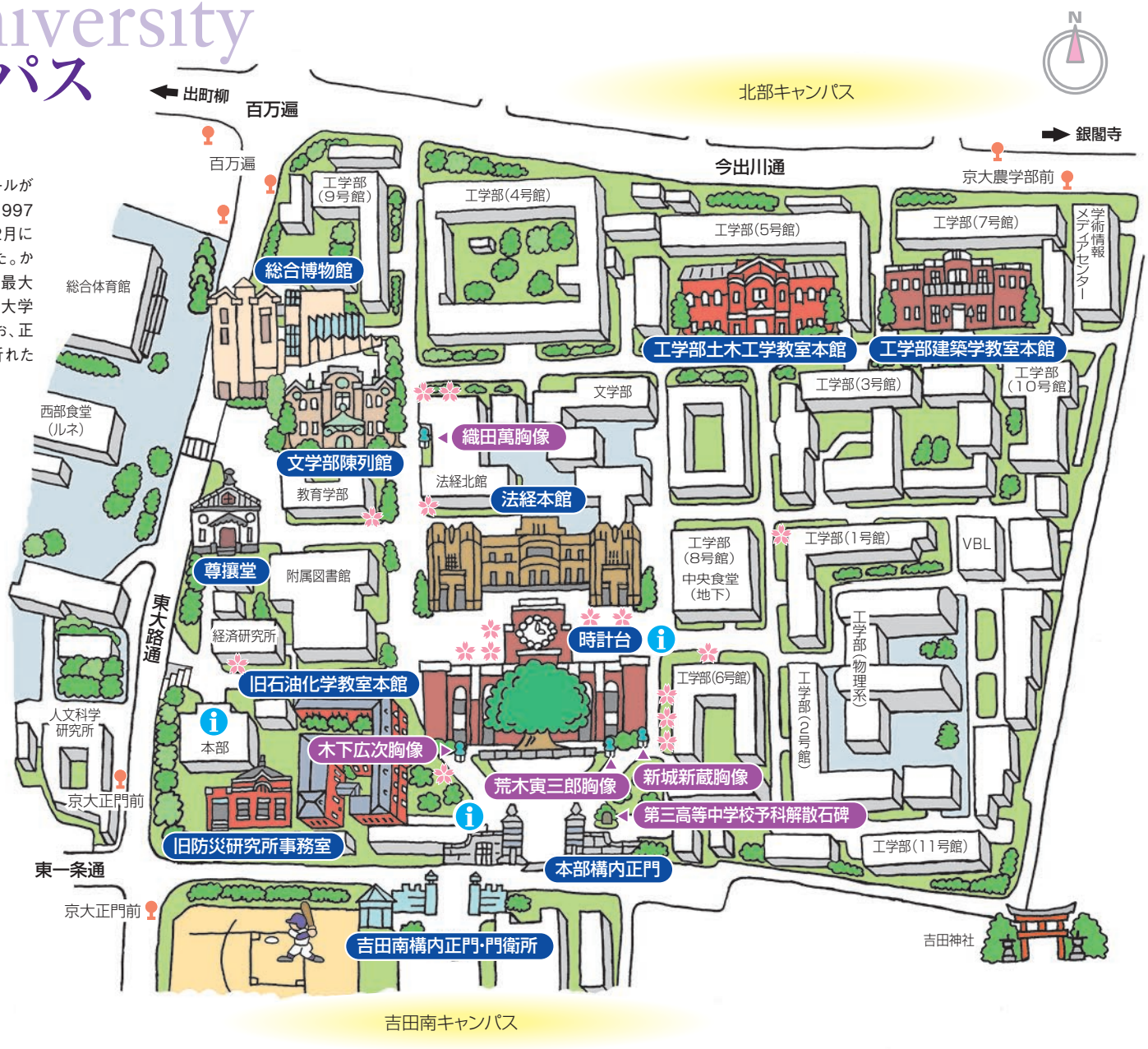
●尊攘堂（そんじょうどう）　（登録有形文化財）

1903（明治36）年竣工。もとは長州藩出身の政治家品川弥二郎が建てた、維新の志士の霊を祀り、遺品を展示するための施設。品川の死後、京大に寄贈された。

●旧防災研究所事務室

1916（大正５）年竣工。旧石油化学教室本館の二階部分と似た意匠の建築。現在は、留学生ラウンジとして使用している。

ℹ 広報センター



●織田萬（おだよろず） 胸像

元法学部教授（1868～1945）。専門は行政法。国際的にも活躍し、国際司法裁判所の判事も務めた。

●木下広次（きのしたひろじ） 胸像

元総長（1851～1910）。第一高等学校校長、文部省専門学務局長を経て、初代総長となり京大の基礎を築いた。

●荒木寅三郎（あらきとらさぶろう） 胸像

元総長（1866～1942）。専門は医化学。1915（大正４）年総長に就任。在職14年は歴代総長で最長。

●新城新蔵（しんじょうしんぞう） 胸像

元総長（1873～1938）。専門は宇宙物理学。1929（昭和４）年総長に就任。不況や思想弾圧など、厳しい時代の大学の運営にあたった。

●工学部土木工学教室本館

1917（大正６）年竣工。大正期の京大の赤煉瓦建築の代表。白い花崗岩の装飾と大きな窓が特徴。

●工学部建築学教室本館

1922（大正11）年竣工。京大最初の鉄筋コンクリート造りで、瓦屋根を持たない建築。小豆色のタイル、正面の湾曲した壁面、頂上部の帯状の装飾などが特徴。

●法経本館

1933（昭和８）年竣工。最初西面のみ竣工し、以後1953年にかけて順次増築された。入り口のまわりには特徴的な意匠が見られる。

●第三高等中学校予科解散石碑

1894（明治27）年設置。当時この地にあった第三高等中学校が大学への進学課程を一時廃止した際、生徒が他の学校に分属させられることになり、その記念につくられた。

●本部構内正門　（登録有形文化財）

1893（明治26）年竣工。竣工当時の門柱は、レンガと石を交互に積み上げていた。1979年に復元工事が行われた。

●総合人間学部正門・門衛所

（登録有形文化財）

1897（明治30）年竣工。もともと現在の本部キャンパスにあった第三高等学校（通称三高）が、京大の創立とともに南側に移転した際につくられた。三高は自由の学風で知られ、ノーベル賞受賞者をはじめ多くの著名人を輩出した。

●旧石油化学教室本館

1889（明治22）年竣工。内側の一階建ての部分は、第三高等中学校が大阪から移転した際に物理学実験場として建てられたもので、京大キャンパスに現存する最も古い建物。ノーベル賞受賞者の湯川秀樹・朝永振一郎・福井謙一の各氏もここで研究した、別名「ノーベル賞の館」。